

令和5年度 第1回函南町環境審議会 会議録

[会議の開催の日時] 令和5年7月26日(水) 午後1時30分～14時45分
[会議の開催場所] 函南町役場 4階特別会議室
[出席者] 委員：(会長)八木戸委員、(副会長)森委員、鈴木(和)委員、
柿島委員、大隅委員、土屋委員、鈴木(敏)委員、藤井委員
町：仁科町長、大沼厚生部長、加藤環境衛生課長、
芹田課長補佐、笠井係長、
(委託業者)株式会社 長大 松井氏、山本氏、玉置氏
[傍聴者] 1人

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 委嘱状の伝達
- 4 委員の紹介
- 5 諮問書の伝達
- 6 会議

＜諮問事項＞

- ・函南町脱炭素化戦略及び地域温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について

＜審議事項＞

- ・函南町脱炭素化戦略及び地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）について

【事務局説明】 函南町脱炭素化戦略及び地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）について

【質問及び意見要旨】

委員	重点行動指針の今年度のテーマの決め方として、社会情勢、町民のニーズをもとにということであったが、生ごみは例えばスーパーやコンビニ、それぞれ事業所とかそういうことが問題になっているのか。町民のニーズをどのように吸い上げているのか、社会情勢をどういう風に見ているのかというところ。今後、来年度に向けてどういう形でこれを決めていくのか。
事務局	生ごみの関係は、町民及び事業者の排出の中で、町ではごみの内容物調査やごみの質の検査というものをさせていただいている。その中で、生ごみが多く、また水分量が多い。町内にも様々な店舗、レストラン等が進出している中で食べ残しなどの生ごみが多いというところがあり、今回生ごみをテーマとして挙げさせていただいている。
委員	生ごみが多いことによって、例えば焼却場の燃料がかさむとか、更に二酸化炭素の増加につながるということか。
事務局	その通りである。ごみが多いとその分焼却燃料がかかる。ごみの排出量自体も水分量ではかなりキロ数にもでてきているので、そのような意味で焼却量が増えればその分温室効果ガスが増えるということになる。

委 員	ごみを挙げていただいたところはありがたいと思っている。令和6年度の重点行動指針として、生ごみの減量・資源化の推進、ごみゼロ運動統一美化キャンペーンの推進を挙げた理由を教えてほしい。
事務局	今回重点行動指針として生ごみの減量・資源化の推進とごみゼロ運動統一美化キャンペーンの推進ということで、ごみのことを挙げさせていただいた。ごみの問題は、町民・事業者の方々にとって一番身近で、関心のあるテーマだと考えている。身近であるとともに、ごみの減量・資源化においては、温室効果ガスの排出量の削減にもつながると考えている。町もごみ問題は喫緊に迫られている課題と考えているため、重点行動指針として挙げさせていただいた。生ごみもそうだが、ごみ拾いも皆様に実際にやっていただいていることは把握している。実施しているものを町に報告をしていただき、町として町民や事業者の方々がこういった形でどういう活動をしているかを取りまとめる必要があると考えているため、重点行動指針として取り上げた。
委 員	大きなところの異論は無い。基本目標2の中の町の取り組みの例で、情報発信をするということになっているが、実際に実働するのは町民の方とか事業者の方々に思えて、町の方は情報発信して終わりなのか、と思われるのは町にとって本意ではないと思うので、何か情報発信以外のところで、具体的なことはあるか。
事務局	情報発信をする的同时に取りまとめをして、その効果を検証しながら呼びかけ、町と町民、事業者と連携して取り組むことが重要だと思っている。一緒に協働して取り組んでいきたいと考えている。

【事務局説明】 函南町脱炭素化戦略及び地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）について

【質問及び意見要旨】

委 員	環境基本計画の年次報告の目的について教えてほしい。
事務局	環境基本計画の年次報告を作成する目的は、町・町民・事業者がお互いに情報を共有するとともに、コミュニケーションの促進や協働を図っていくことである。また、情報を共有することにより、環境保全への関心を喚起し、環境保全活動をより活発にしていくことも目的の一つである。報告書は、環境基本計画はPDCAサイクルを導入し進行管理を担っている。計画に示された基本目標や基本施策に沿って、どのような取り組みが進められ、計画の目標が達成されているかを明らかにすることで取り組みの改善を図り、計画をより一層推進しようとするものである。

【事務局説明】 函南町脱炭素化戦略及び地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）について

【質問及び意見要旨】

委 員	脱炭素化戦略、地球温暖化対策実行計画の区域施策編について、策定後の進捗や町民へのフィードバックを町としてどのように考えるか。
-----	--

事務局	計画を確実に遂行していくために、環境基本計画と同様に、施策や事業の進捗状況等を定期的に把握、評価し、計画を継続的に見直すことを目的として、PDCA サイクル、業務的改善の仕組みの導入をしていくような形をとっていきたいと考えている。
委 員	今後の函南町の再エネの見通しはあるか。地域づくりや地域の発展につながるかもしれないというところを教えてもらいたい。
事務局	まだ見通しは全く立っていない状況である。函南町はメガソーラー問題等もあるので、そういった景観を意識するなどの部分も考慮しながらこの再エネに対して、ポテンシャルを見出したいと考える。函南町には温泉施設もあるため地熱の活用というののももしかしたらできるかもしれない。また川等もあるので、水力発電という可能性があるかもしれない。この脱炭素化戦略の中でどのような可能性があるのかを見出していきたいと考えている。
委 員	1 環境基本計画の進捗管理は環境審議会の中で報告や審議はないと考えて良いか。 2 事務事業編の防災部局の再エネ導入による地域レジリエンスの向上はとても大事だと思う。このレジリエンスの向上に関して具体的に想定されているものがあれば教えてほしい。 3 あくまで意見だが、メガソーラーパネルの話は今いろいろな問題があり、世間的にも注目されているのも承知している。再エネ導入のポテンシャルをこれから評価することになるが、今の函南町の自然や社会条件の中でこういった再エネがあるかポテンシャルがあるのかということとは、別に考えて中立的に調査は進めた方が良くと思う。
事務局	1 環境基本計画の進捗状況は、令和 5 年度の実績状況を令和 6 年度の審議会の中でというように、毎年度その状況を報告し委員の皆様のご意見をいただきたいと考えている。 2 地域レジリエンスの関係は防災部局に関しては、函南町指定避難所が各小学校の体育館、また函南町役場が災害対策本部という形になっている。それぞれ停電した際に非常用発電を持っているが、燃料を入れなければならない状況なので、例えば体育館等にもソーラーパネルをつけられたら、そこに併設して蓄電池を置く。V 2 H という外部充電器を併設することにより、電気自動車から外部充電器を通して避難所等で電源を一定だけ、例えば避難者のスマホの充電、パソコン等に必要な電力の確保等を視野に入れながら考えているところである。 3 メガソーラーについて、問題点はあるがまずは中立的な立場として、どれくらいつけられるかというものを出した中で、町の課題として挙げるということを考えている。
会 長	今日の審議会のなかで生ごみの量を少なくすることだけではなく、より水分をなくして出すという具体的なことや、情報の出し方、行政の方から一方通行で出すのではなく、町民、事業者の方々と協力体制がどれだけできるかということについて、審議会にて連絡していただく必要が

会 長	あるのではないかと思っている。意識付けが非常に大事ということ。 公共施設についても自然エネルギーの安全対策や情報発信の中で地球温暖化対策や脱炭素に貢献しているのかがわかるような形での情報発信をして町民の皆様に理解していただきたい。町民の方からもいい意見があれば広く知らしめていくとともに、そのような情報を集めて発信をしていくことが必要でないかと感じた。アンケートの結果についても、町としてあらゆる機会を活用して情報発信をする必要がある。また、それに対する対策等も審議会に話をしていただければ審議会の内容がより詰まってくるのではないかと思う。 審議会についてはお手元のスケジュールに合わせて進めていくということではよろしいか。 ありがとうございます。 それではスケジュールに沿って進めていただきたい。 本日予定していた会議の次第は以上になる。 ありがとうございました。
-----	--

4 その他

脱炭素化に向けた普及啓発セミナー参加者募集について

5 閉会

以上